

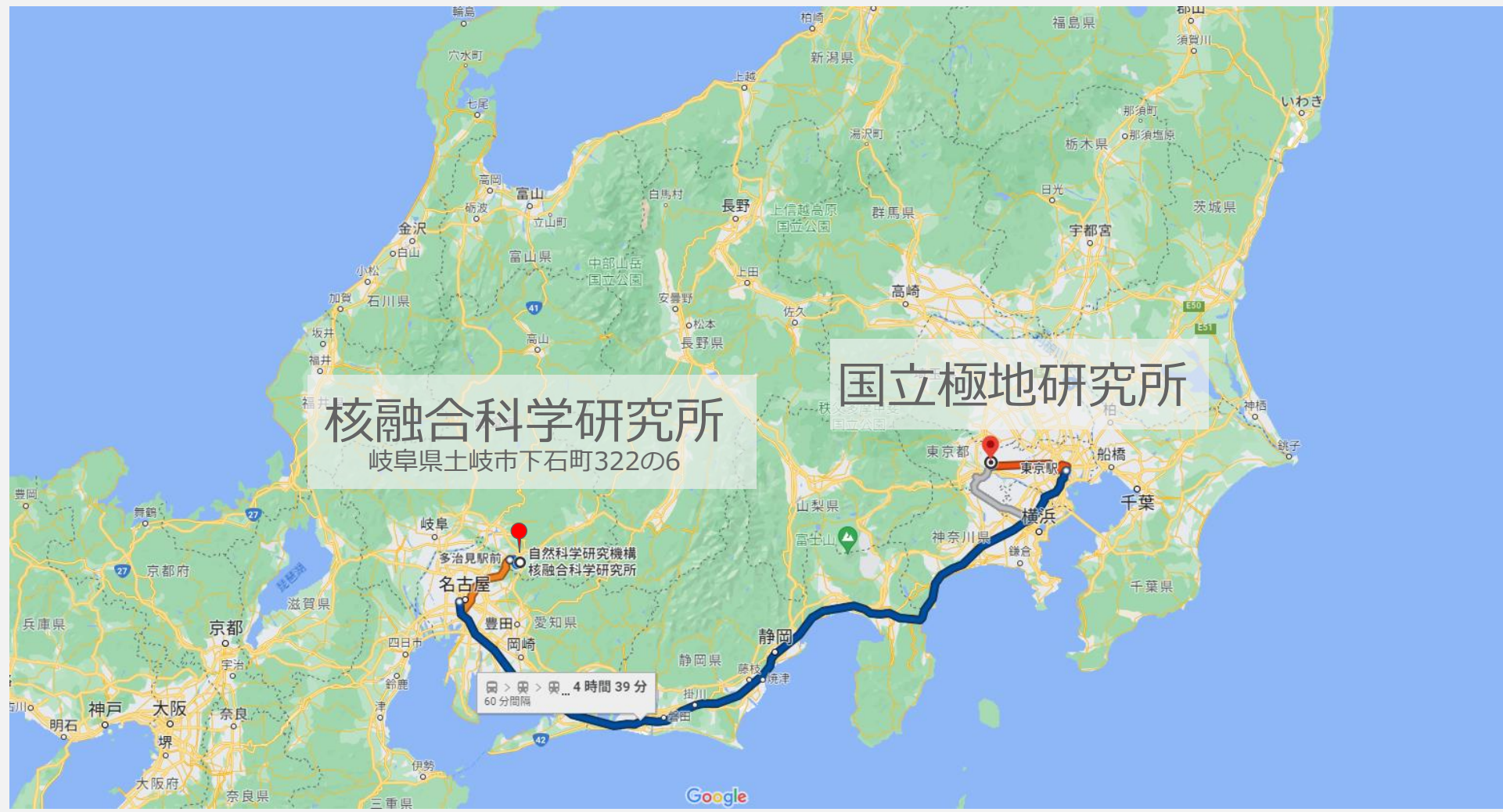
核融合科学研究所におけるアーカイブ活動

核融合科学研究所
成嶋 吉朗

1. はじめに
2. これまでの経緯
3. 現状
4. 今後の活動

1. はじめに
2. これまでの経緯
3. 現状
4. 今後の活動

核融合科学研究所の紹介



核融合科学研究所全景



自然科学研究機構 核融合科学研究所

核融合科学研究のための共同利用研究機関

世界トップレベルの共同研究を
実施するために研究基盤を整備し運用

核融合技術の社会実装のための
核融合技術の学際化を目指す

核融合科学研究所におけるアーカイブ室

日本の核融合科学研究に関する史料を
恒常的に調査、収集、整理及び保管し、
また適切に研究者等に公開することを通じて、
核融合研究に対する**歴史的評価**と社会に対する
説明責任を果たすため、
核融合科学研究所に核融合アーカイブ室を置く。

背景(前史) 名古屋大学プラズマ研究所時代

1961-1989



伏見康治
NIFSアーカイブより

初代所長伏見康治先生所有の多くの歴史的資料
故早川幸男先生所有の資料



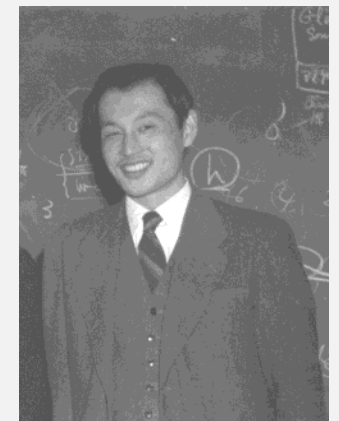
プラズマ研究所伏見資料室に保存



核融合研究の科学史的な考察の対象となり得るように整理



部分的な資料整理と目録の作成等



早川幸男

<https://www-tap.scphys.kyoto-u.ac.jp/>

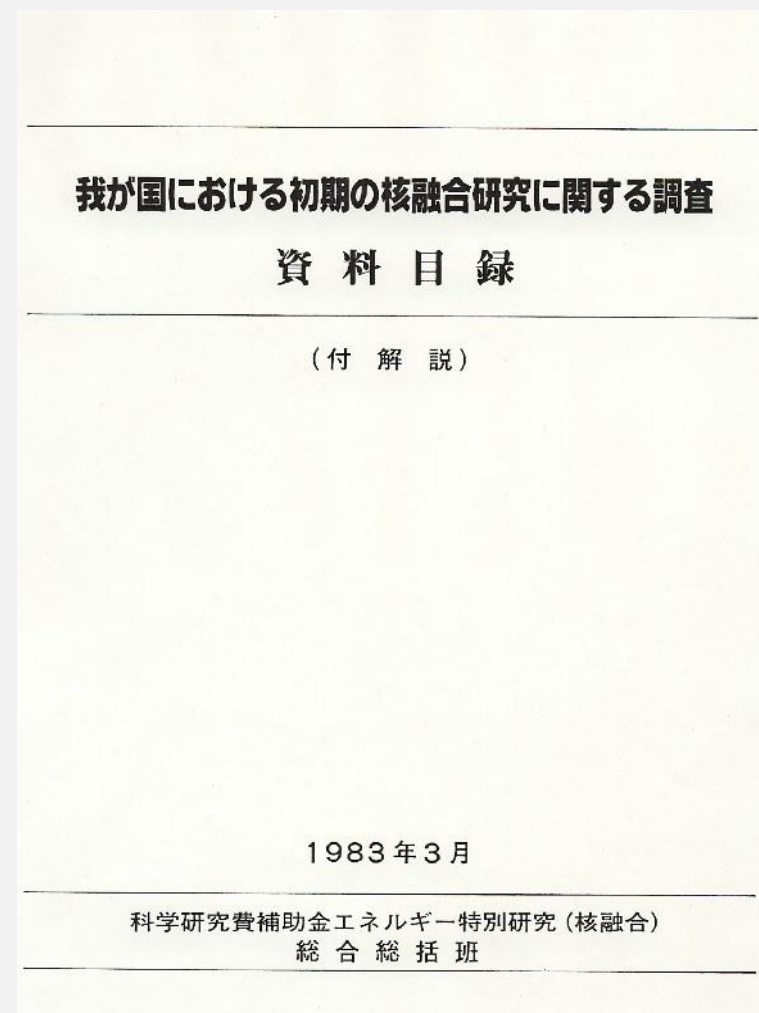
1982年

文部省科学研究費補助金エネルギー特別研究（核融合）
総合総括班事業（早川幸男先生，木村一枝氏）
一部の資料の分類と目録の作成



事業報告書(1983年3月)
『我が国における初期の核融合研究に関する調査』
資料目録

提案者：早川幸男，事業責任者：長尾重夫





Morris Low

<https://hpi.uq.edu.au/>

モリス・ロウ氏
(当時：留学生、現：クイーンズランド大学)
核融合関係資料を整理



核融合研究開始時から名古屋大学プラズマ研究所
発足までの歴史がまとめられた

早川幸男, 木村一枝 ; 「核融合研究事始め」
核融合研究57巻 p.201, p.271, p.364 (1987)

核融合研究 第57巻第4号 1987年4月

核融合研究事始め (1)

早川幸男, 木村一枝
(名古屋大学理学部)

1994～1996年
日本原子力研究所及び名古屋大学プラズマ研究所
を中心に基礎的資料調査
(委託調査研究、主査 = 西尾成子先生)



「核融合研究の歴史－委託調査報告書」
(1995年2月, 日本大学理工学部 西尾成子)
「核融合研究発展に関する情報収集及び調査－委託調査報告書」
(1996年2月及び1997年2月, プラズマ・核融合学会)

1997年（研究所の土岐地区への移転）

旧プラズマ研究所伏見資料室に保管されていた全資料を
資料整理箱に収め、簡単な目録を作成して土岐地区へ移送

1999年度

共同研究：「わが国の大学における核融合研究に関する資料調査研究」
（研究代表者：西尾成子）発足

核融合研究者と科学史研究者の協力によるこのような資料調査活動を、
正式な研究テーマに含めて行こうという研究所の姿勢の現れとして、
他の分野からも評価、注目される

担当業務

核融合アーカイブ室では次に掲げる業務を行う。

1. 史料の恒常的、総合的、系統的な調査・収集・整理・保管
当面对象となる史料としては以下に関連するものを中心とする。
 - ① 核融合科学研究所
 - ② 京都大学エネルギー理工学研究所附属エネルギー複合機構研究センター
旧京都大学ヘリオトロン核融合研究センターを含む
 - ③ 旧広島大学核融合理論研究センター
 - ④ 旧名古屋大学プラズマ研究所
 - ⑤ その他大学関係機関
2. 史料目録の作成とそのデータベース化
3. 収集・整理された史料及びその目録の適切な公開基準に基づく公開
4. 収集・整理された史料に基づく年表の作成など史料の編纂
5. アーカイブズの手法に関する調査・研究
6. 国内外の関連研究機関とのアーカイブズに関する共同研究

これまでの調査研究の内容と成果

- ◎ 資料・史料の総合的・系統的な収集、整理と保管
- ◎ データベースの作成
- ◎ インタビューの実施（資料で不足する部分や不明な点を補完するため）
- ◎ 年表作成（プラズマ研究所、NIFS、各大学、国際協力における核融合研究の推移など）
- ◎ 収集・整理された資料・史料の利用提供、公開へ向けた準備

史料の収集・整理とデータベースの作成

登録資料数（1999~2023）： 延べ27,716件

使用データベース・ソフト：FileMaker Pro
(パソコンベースでの作業、汎用性、拡張性)

整理・保管：資料 1 項目毎にID番号、封筒に入れID表示
封筒に入らないものはラベルによりID表示
IDの例：047-18

収納箱：中性紙箱（箱番号・所在情報掲示）
箱総数：約 1,216箱
箱番号の例：B233

収納棚：研究棟内に設けた専用棚に箱を格納



Webでの公開

<https://www.nifs.ac.jp/archives/index.html>



核融合アーカイブ室 / 核融合科学研 x +
https://www.nifs.ac.jp/archives/index.html

核融合科学研究所
Home アーカイブ室について 研究活動 刊行物 所蔵資料概要 検索

核融合アーカイブ室

日本の大学での核融合研究の始まりは

1955年8月ジュネーブで開かれた第1回原子力平和利用国際会議（通称「ジュネーブ会議」）で、Homi J. Bhabha議長により熱核融合の平和利用という課題が指摘され、1958年9月の第2回会議では、それまで米、英、旧ソ連で秘密裏に行われていた核融合研究が一斉に公開されました。日本では1956年4月、京都大学基礎物理学研究所に天文、物理、電気工学の研究者が集まったのが核融合に関する最初の研究会でした。1956年6月には大阪大学において超高温研究会が発足しています。全国の研究者の自主的組織として核融合懇談会が発足したのは1958年2月であり、1961年（昭和36年）には、全国共同利用研究所として名古屋大学にプラズマ研究所が創建されました。

1958.9.1-13
第2回原子力平和利用国際会議の様子

1964.8
第3回原子力平和利用国際会議において展示された各国の核融合実験装置。写真は、OGRAII（ソ連＝当時）を見学する参加者。中央はワ・タント副事務総長（当時）

1964.8
第3回原子力平和利用国際会議（ジュネーブ、1964年）に参加した日本代表



資料の収集と公開、持続可能な予算的裏付け

資料の収集

- 貴重な資料の収集と資料価値の周知
資料の整理効率とアクセシビリティの向上

資料の公開

- 研究者等への公開
核融合研究に対する歴史的評価と社会に対する説明責任を果たす
- 広報活動
一般の方への情報公開、webなどを活用した宣伝

予算にかかる課題

- 当面の課題と解決策(クラウドファンディングや寄付金)